

# 図書寮文庫におけるデジタルアーカイブの取り組み

## 図書調査室

### 一 はじめに

書陵部図書寮文庫では、令和四年（二〇二二）十一月一日～同五年一月三十一日まで、デジタルアーカイブ「書陵部所蔵資料目録・画像公開システム」（以下、当システム）の図書寮文庫に関するアンケートを実施した。本稿は、その結果の報告にあわせて、これまでの図書寮文庫におけるデジタルアーカイブの取り組みを説明するものである。執筆は、図書寮文庫において当システムの運用に携わった図書調査室の杉本まゆ子・植田真平が担当した。

### 二 沿革

書陵部図書寮文庫におけるデジタルアーカイブの取り組みは、平成二五年（二〇一三）十一月に「図書寮文庫所蔵資料目録・画像公開システム」（以下、図書寮文庫公開システム）として始まった。掲載されたのは、『和漢図書分類目録』（上下・増加）および『書陵部紀要』彙報に掲載された所蔵資料の目録

情報五万二四四七件と、『帝都東部真景』（函架番号（以下同）…B八・三二）などの古写真や、『琵琶譜』（伏・二〇七二）、『五箇条御誓文』（四五九・六一）、『竹取翁并かぐや姫絵巻物』（五〇〇・一三八）など、図書寮文庫を代表するような資料二九書目の画像一五二四コマである（表1参照、書目数は同一函架番号あたりの数）。

図書寮文庫所蔵資料に関するデジタルアーカイブとしては、図書寮文庫公開システムの公開に先立つ平成二四年七月より、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館の「日本古典籍総合目録データベース」において、図書寮文庫の日本文学資料三八四七書目の画像が公開されていた。公開画像の拡充と利用者の利便性向上のため、図書寮文庫公開システムでは公開当初より国文学研究資料館と連携し、画像公開情報の提供を受けて、図書寮文庫公開システムの目録情報ページに「日本古典籍総合目録データベース」の該当書目ページへのリンクを表示した。次章で詳述するように、この他機関との連携が、当システム図書寮文庫における中核的な取り組みのひとつとなる。

平成二六年一〇月一日、図書寮文庫公開システムは、別途データベースを

表1 公開目録件数・画像件数等累計（網がけは参考値）

	目録	画像		
	件数	書目件数	書目点数	コマ数
平成25年11月 <sup>※1</sup>	52,447	29	579	1,524
平成25年度末	52,447	59	627	2,667
平成26年10月 <sup>※2</sup>	52,465	91	920	9,977
平成26年度末	53,008	111	999	11,769
平成27年度末	54,020	706	2,147	81,768
平成28年度末	54,032	1,141	3,004	109,796
平成29年11月 <sup>※3</sup>	69,647	1,235	3,191	116,033
平成29年度末	69,996	1,244	3,293	119,641
平成30年度末	75,061	1,429	4,351	170,294
令和元年度末	76,863	1,579	5,228	202,261
令和2年度末	77,350	1,675	5,611	215,055
令和3年度末	78,687	1,841	6,037	231,154
令和4年度末	81,761	2,013	6,434	243,671

※1 図書寮文庫所蔵資料目録・画像公開システム公開時

※2 書陵部所蔵資料目録・画像公開システム公開時（宮内公文書館合同）

※3 書陵部所蔵資料目録・画像公開システム改修時（陵墓課合同）

運用していた書陵部宮内公文書館と合同し、「書陵部所蔵資料目録・画像公開システム」として再スタートした。これにより、公文書管理法施行以前には書陵部所蔵資料として一体であった図書寮文庫と宮内公文書館の所蔵資料を、横断検索することが可能となった。ただし、このときはデータベースの統合に至らず、サイトの合同にとどまったため、横断検索とはいえ二つのデータベースを跨いで検索するシステムであった。

さらに、平成二九年秋に大規模改修を行い、一月一日に陵墓課の考古資料も合同し、図書寮文庫・宮内公文書館・陵墓課の三本立ての新たな「書陵部所蔵資料目録・画像公開システム」として発足した。この改修・合同時にデータベースの統合も行い、図書寮文庫・宮内公文書館・陵墓課の三つの資料群をひとつのデータベースとして運用する仕組みを導入した。これにより、横断検索もスムーズなものとなった。ただし、日常的な管理等は、図書調査室・宮内公文書館・陵墓調査室で各自行っている。

図書寮文庫では後述のとおり、新たに整理した資料の目録情報の追加および画像の公開を定期的に行い、細目の目録情報の掲載も適宜進めている。これにより、令和四年度末で検索可能な目録数は八万一千七六一件、公開画像数は二〇一三書目、二四万三六七一コマに至っている（表1参照）。平成二五年一月の図書寮文庫公開システム開始時と比較すると、目録数は一・五六倍、公開画像書目数は六九・四倍、同コマ数は一六〇倍に増えている。開始から十年を経て、図書寮文庫のデジタルアーカイブは大きな成長を遂げている。

### 三 システムの概要

#### 目録情報

先述のとおり、平成二五年二月の図書寮文庫公開システム開始時に、『和漢図書分類目録』（上下・増加、昭和二七・二八・四三年）および『書陵部紀要』一〜六四号彙報に掲載した所蔵資料の目録情報を掲載し、六五号以降のものも公開ごとに追加している。加えて、平成二七年一〇月に、高松宮本マイクロフィルムの六四件、平成二八年二月に、図書寮文庫所蔵洋書一〇〇

○件の目録情報を追加した。

また、平成三〇年四月の改修により、細目の目録情報を登録することを可能とした。例えば、それまで『統群書類従』（四五三・二）七七九冊を一件の目録情報として公開していたが、枝番号を付して一冊ごとの細目の情報も登録して、『統群書類従（神祇部・巻1）』（内容・神皇雑用先規録）などの各冊の情報を公開できるようになった。これにより、複数冊・巻ある叢書類の内容書目や古記録の年次別などの検索が可能となった。令和五年一二月末までに、この細目情報を一五五五件、二万六〇一一点分公開している。なお、令和四年五月には、フリーワード検索および詳細検索に「検索結果に細目を含める」のチェックボックスを設置し、細目を除く検索も可能としている。

この細目情報の登録と並行して内容情報の充実も進めた。右の叢書類や古記録のほか、例えば『図書寮叢刊 九条家文書』等の所収資料は各文書名や文書番号を、古写真類はキャプションの情報を内容欄（左記「註記等」）に追加し、検索できるようにしている。

目録情報のデータ項目は、公開システム上で以下の一六としている。

- 函架番号 …「函」と「号」。閲覧・複写申請等に必要の整理番号。
- 枝番号 …複数点ある資料の序列番号。
- 分類番号 …図書寮文庫における分類法に基づく番号。
- 書名 …図書寮文庫における登録書名。
- 註記等 …一名（別名）・旧書名・合綴・内容・附つけたり等の情報。
- 編著者 …作者、編者。編著年次を付記。
- 刊写情報 …原本・写本・版本の別や、書写者、書写年次等。
- 家別 …「伏見宮本」「九条本」等、旧蔵者別の資料群の情報。

点数 …冊数や巻数、枚数など資料の員数。

閲覧区分 …図書寮文庫では未使用の項目。

複製番号 …閲覧用の紙焼き写真帳・マイクロフィルム等の番号。

翻刻・紹介情報 …『図書寮叢刊』や『書陵部紀要』の掲載情報。

貸出情報 …図書寮文庫では未使用の項目。

解説 …ギャラリー（後述）掲載の解説文、掲載情報。

備考 …旧函架番号やその他資料に関して付記すべき情報。

画像 …画像ページへのリンク。

運用上は、一件ごとに固定のユニークIDを付し、「函架番号」は「函」と「号」、「刊写情報」は「刊写年次」「刊写者」「刊写情報」（写、原本、木版等）などと細分化し、当システムの表示時に統合させている。なお、編著者や刊写者の人名は、『和漢図書分類目録』では図書寮文庫の基本方針に基づいて実名に統一しているが、当システムでは検索等の便宜のため、「新井君美」「新井白石」等と通用名も補記している。

この現在のデータ項目は、平成二九年秋のデータベース統合時に、宮内公文書館・陵墓課の各資料とのすり合わせの上で作成したものである。むろん、全データ項目・項目名は三所で完全に一致しないため、不使用の項目を公開システム上で非表示としていたり、同じデータ項目であっても表示される項目名を変更したりしている（図書寮文庫では「書名」、陵墓課では「出土品名」など）。図書寮文庫でも未使用や非表示の項目も少なからずあるが、令和五年三月に情報を追加した「複製番号」のように、今後の拡張の余地として確保しているものもある。

## 検索機能

現在は、フリーワード検索・詳細検索・分類検索の三種で、前二者には「画像がある資料だけを検索する」「検索結果に細目を含める」のチェックボックスと、各テキストボックスの「すべての語句を含む」「いずれかの語句を含む」「いずれの語句も含まない」の選択プルダウンメニューを、三種すべてに検索結果の並び順（書名／編著者／函架番号）、表示件数（二〇件／五〇件／一〇〇件／二〇〇件）のプルダウンメニューを付している。

詳細検索の項目は、概ね上述の目録情報に依っているが、いくつか説明を要するものもあるだろう。

書名検索は、一名や旧書名、合綴等の情報も検索させるため、「註記等」も対象としている。書名よみ検索は、その名のとおり書名のよみを検索するが、よみ自体は検索用の補助的な情報にし、目録情報としての公開はしていない<sup>(1)</sup>。これは、例えば「徒然草」のように、登録書名に「徒然草」「つれづれ草」「つれづれ草」「つれづれ種」など複数の表記がある場合、これらを満たす検索条件として、書名よみ「つれづれぐさ」を検索するという用法を想定したものである。

詳細検索ではこのほか、「函架番号」「編著情報」「刊写情報」「家別」等の検索に対応し、AND・OR検索（すべての条件を満たす／いずれかの条件を満たす）の選択を可能としている。

かつての検索機能は、書名、編著者、写本／版本の別、資料画像の有無とフリーワード検索のみであったが、とくに函架番号や家別の検索は内外の要望が大きく、平成二九年秋の改修で、それらおよび分類検索の追加など検索機能を刷新した。そして、先述のとおり令和四年五月に細目に関するチェッ

クボックスを一点追加して、現在のかたちとなった。

## 画像の撮影とダウンロード

当システムで公開している画像は、職員によるデジタル撮影、業者に発注したデジタル撮影、同じく業者撮影のマイクロフィルムをデジタル化して作成したものである。

図書館文庫公開システム開始当初は、業者撮影の画像とマイクロフィルムよりデジタル化した画像しか用意できなかったが、平成二六年三月に職員によるデジタル撮影の設備を導入し、公開用画像を増産できるようにした。

この撮影設備は、図書調査室の職員用のマイクロフィルム撮影台を、撮影業者に依頼してデジタルカメラにも取り替え可能に改造したものである（画像1）。デジタルカメラは一般的な家庭用のもので、当初はキャノンEOS kiss X5、現在は同X10を使用し、これを執務用のPC端末に



画像1 職員撮影の設備（書陵部庁舎内）

表2 年度別撮影コマ数 註(2)

	職員撮影分	業者撮影分
平成26年度	6,084	1,596
平成27年度		3,294
平成28年度	8,429	498
平成29年度	9,443	1,765
平成30年度	15,937	2,043
令和元年度	15,715	2,271
令和2年度	7,618	2,250
令和3年度	8,898	2,015
令和4年度	3,622	1,908

接続して撮影している。照明は、当初マイクロフィルム撮影用の電球を流用し、ホワイトバランスを調整して撮影していたが、現在は撮影用LED照明を導入して、ホワイトバランスの調整を必要なりに留めている。

職員撮影は、図書調査室所属の研究職等が行っている。画像の質

は業者撮影に比べるべくもないが、簡便さと迅速性、画像ごとの撮影範囲や撮影方法を適宜決められることに、職員撮影の利点がある。たとえば、古文書複数通を収めた卷子本ならば、紙継目や一通ごとの区切りを意識し、一紙ずつ番号札を付すなどして撮影したほうが、閲覧に有用である。また、裏打ちによって紙背文書が見えないものは、市販のバックライトのトレース台を用いて透過光撮影を行う。図書寮文庫修補係と連携して、解体修理中の資料を撮影することも可能である<sup>③</sup>。こうした資料個々の内容や状態に応じた撮影は、資料の調査と保存に専門的に従事し、研究者として資料の利用者でもある研究職の職員等ならではのものだろう。

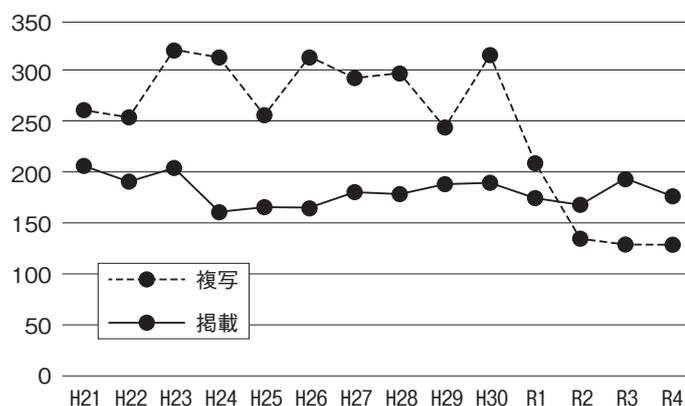
業者による撮影は、図書調査室が発注したもののほか、図書寮文庫出納係が発注、作成したもの、連携他機関提供のものがある。出納係のものは、古写本や古写真など原本保護のため、外部閲覧用の複製物として作成したものであり、閲覧に供するものと同じものを当システムで公開している(表2)。

以上の要領で作成した画像を、毎月初旬に十数〜数十書目ずつ公開し、図

書寮文庫の「お知らせ」欄に告知している。この定期公開は、当システム担当の図書調査室の職員が、書目の選定から撮影、画像の変換、アップロードまでを行うことで実現している。

画像のダウンロードについても述べておきたい。図書寮文庫公開システム以来、しばらくダウンロード機能を搭載していなかったが、平成三〇年四月、長辺二〇〇〇ピクセル<sup>④</sup>に加工したJPEG画像をダウンロードする機能を追加した。さらに令和三年三月三〇日、オリジナルの画像データと同サイズのダウンロードを可能にした。現在では、ダウンロードのサイズを大中小から選択できる。なお、長辺一万ピクセル超のものは、ダウンロード時にサイズの調整をしているが、職員撮影の画像データはおよそ長辺九〇〇〇ピクセル以下である。

自由に画像のダウンロードをできるようにしたことは、図書寮文庫の複写頒布業務<sup>⑤</sup>(出納係担当)にも影響した。平成二五年度の複写申請は二五七件、出版物等への掲載許可申請は一六六件であるのに対し、令和四年度の複写申請は一二八件、同掲載申請は一七七件となっている(グラフ1)。掲載許可申請数が横ばいなのに対し、複写申請数は大幅に減少しており、画像のダウン



グラフ1 複写と掲載の申請件数の推移

ロードが複写領布に替わったことが見てとれる。デジタルアーカイブは、所蔵機関の業務の軽減にもつながっている。

#### 他機関との連携

他機関のデータベースとの連携も、当システムの特徴のひとつである。前述のとおり、図書館文庫所蔵資料の画像は、図書館文庫公開システム開始以前より国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」、次いで「新日本古典籍総合データベース」(現在は「国書データベース」<sup>⑥</sup>)で公開されており、平成二八年六月からは慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・東京大学東洋文化研究所付属東洋学情報センター「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」<sup>⑦</sup>、令和二年三月から東京大学史料編纂所データベース「Hi-CAT Plus」<sup>⑧</sup>で公開が開始された。公開書目は各データベースとも順次増加しており、いずれも画像ページもしくは目録ページへのリンクを、当システムの当該書目の目録情報「画像」欄に追加し、「国文研」「漢籍集覧」「東大史」と表示している。

公開書目の性格や書目数を各機関・データベース別にみると、国文学研究資料館は「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」によって、和書一万一九二四件を公開している。漢籍集覧では、科学研究費助成事業「宮内庁書陵部収蔵漢籍の伝来に関する再検討―デジタルアーカイブの構築を目指して―」(二〇二二―一六年度、研究代表者住吉朋彦氏)等により、漢籍旧鈔本と宋刊本、平安期以前の仏典等一三九件を公開する。史料編纂所は、科学研究費助成事業「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目錄学の進展―知の体系の構造伝来の解明」(二〇一七―二一年度、研究代表者田

島公氏)等による「禁裏公家文庫研究プロジェクト」で、伏見宮本や九条本など家別を基準とした九〇五一件の公開を行っている(公開件数はいずれも令和五年二月現在。データベースにより書目の数え方は異なるため、件数とした)。

国文学研究資料館による膨大な量の画像公開が、研究資源として学術に寄与していることは言を俟たず、漢籍集覧は、ほとんどが新規撮影のカラー画像であり、国内外の注目を集めている。また、史料編纂所での公開開始はコロナ禍初期に重なり、歴史学研究者を中心に、ステイホーム期の研究活動を支えるものとして大きく受け止められたことも、記憶に新しい。

なお、現在では、当システムで画像公開されている資料のうち、古文書については、史料編纂所データベース「古文書ユニオンカタログ」から当システム該当ページへのリンクもなされており、連携他機関のデータベースとの関係は双方向となっている。

#### オンライン申請・レファレンスフォーム

平成三〇年四月、図書館文庫の閲覧申請フォームを新設し、オンラインでの受付を開始した。また、令和四年四月には、レファレンスフォームも設置して、利用者の問い合わせにオンラインで対応できるようにした。それまで、閲覧申請は書類のみ、レファレンスは封書もしくは電話での対応であったが、現在、閲覧申請の八五%程度がオンラインでの申請となり、図書調査室対応のレファレンスも封書・電話の問い合わせは激減している。

なお、フォーム入力後のフローは、閲覧申請は入構の都合上、許可書の郵送となり、レファレンスはメールでの返信となる。

ギャラリー

図書寮文庫公開システムの当初より、トップページに「ギャラリー」として所蔵資料を紹介するコーナーを設けている。平成二九年十一月の改修以前は、小サムネイル画像に一〇〇字程度の解説を付したものの六点並べて表示していたが（画像2参照）、改修にともない、サムネイル画像を大きくし、解説も四〇〇〜五〇〇字程度と増量して、一点ずつをカルーセル方式（スライドして表示を切り替える方式）で表示するものに転換した。さらに、一点ごとに時代や地域などのハッシュタグ風のタグを付し、バックナンバーのページで



画像2 図書寮文庫公開システムのギャラリー表示例（平成25年12月）

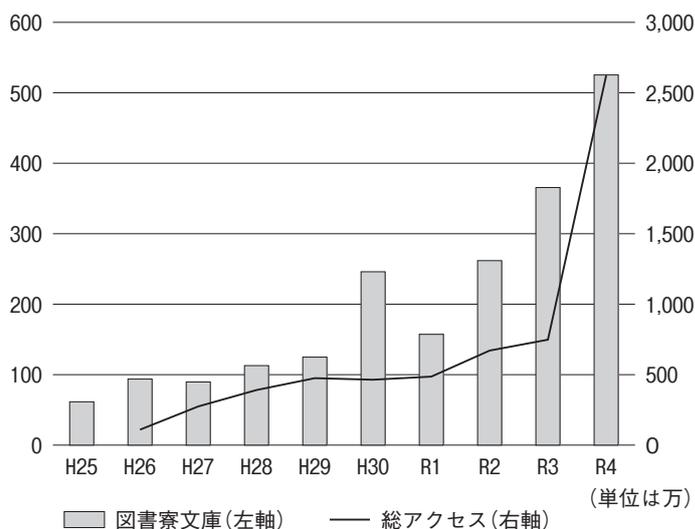
検索できるようにした。

書目の選定および解説の執筆は、書陵部の図書課・陵墓課・編修課の研究職が担当している。かつては六点ごとにテーマを設けて、一ヶ月ごとに更新していたが、現在はテーマ制を排して二ヶ月ごとの更新とし、令和五年一二月現在までに、累計四二六点をとりあげている。デジタルアーカイブのアプリルはその特性上、専門家向けになりがちだが、このギャラリーは数少ない一般向けのコーナーであり、書陵部の所蔵資料を通じて書陵部の業務を紹介する役割を負っている。

### 発行物の公開

平成二九年秋の大規模改修にともない、「発行物一覧」のページを新設し、書陵部が発行する『書陵部紀要』、目録・解題類、コロタイプ複製、『図書寮叢刊』『桂宮本叢書』『皇室制度史料』『明治天皇紀』『昭和天皇実録』『天皇家族実録』『出土遺物の整理報告』、展示目録の書名一覧を公開し、本文をPDFファイルで閲覧できるようにする機能を追加した。現在、『書陵部紀要』および展示目録の一部をPDFで公開している。

『書陵部紀要』（非売）は、毎号、冊子も作成しているが、六九号（平成三〇年三月刊行）以降、刊行時にPDF版を公開している。有料誌等のリポジトリのような、刊行からPDF公開までの間のタイムラグは設けていない。PDF版の公開は印刷・発送費の節約にも繋がっており、冊子の作成・頒布は縮小傾向にあるが、保存・公開の都合上、冊子作成は継続する予定である。また、既刊分のPDF版公開も適時的に進めており、令和五年一二月現在、四一号以降の公開を完了している。四〇号以前も順次公開する予定である。



グラフ2 図書館文庫ページビュー数・総アクセス数

### アクセス数の推移

図書館文庫のページビュー数の推移、総アクセス数の推移は、グラフ2のとおりである。総アクセス数は、当システム全体でのアクセスである。令和三年度まで堅調な増加を示していたが、令和四年度の甚だしい増加は、コロナ禍の研究方法の変化とも考えられるが、公開画像の増加にともなうロボットクロール（検索エンジンによる自動巡回）等の増加によるものだろうか。

図書館文庫のページビュー数は、公開初年の平成二五年度は五ヶ月分の数字だが、マスメディアで好意的に取り上げられたこともあり、アクセスが多かった。以後、平成三〇年度にロボットクロールによる大量のアクセスがあったことを除けば、堅実に増加しているといえよう。なお、令和二～四年度のページビュー数の大きな伸びが、公開画像の増加によるものか、コロナ禍の在宅研究等にもなうものかは、今後の推移から判断したい。

### 四 アンケートの実施とその回答からみえる課題

冒頭でも述べたとおり、本稿は令和四年一月一日～同五年一月三十一日に実施した当システム図書館文庫に関するアンケートの報告を目的とする。このアンケートは、図書館文庫公開システムより数えて公開後十年を迎えるのを前に、利用者の評価を知るために実施したものである。

デジタルアーカイブにおいて、受動的に利用者、ユーザーの評価を知ることとは難しい。新しく画像公開した資料についてSNS等で取り上げられることはあっても、ユーザーインタフェース（以下、UI）の良し悪しに言及されることは比較的少ない。図書館文庫のような専門性の高い資料群の場合、かつては求める情報の有無や精度が優先され、使い勝手は二の次となりがちであった。しかし、多くの資料がウェブ上で公開される時代になった現在では、UIは重要なポイントである。当システムは上述のとおり、平成二九年以降、大規模改修を行っておらず、UIが時代遅れになっていないか知っておきたい、というのもアンケート実施の動機であった。

- アンケートの設問は、主に以下の点の把握を目的として作成した。
  - ・主にどのような目的で何が利用されているか
  - ・快適に利用できているか（スペック・UI）
  - ・搭載された機能等が周知されているか（検索方法・ギャラリー等）
- あわせて、質問は平易な日本語とすることを心がけた。

アンケートは、ウェブ上でGoogleフォームを用いて行ったほか、紙面でも図書館文庫の閲覧者等を対象に行い、回答期間三ヶ月の間にウェブ上で二

二七件、紙面で四八件、合計二七五件の回答を得た。本稿末尾に掲載したが、その集計結果である。以下、その分析を通して公開システムの図書館文庫が抱える課題について考えたい。

### 利用者と利用目的

まず、回答者の属性を見ておきたい。これは、おおまかな利用者の割合というより、傾向として、特に公開システムに改善の期待をかける利用者が、より積極的にアンケートに回答したと見ておくべきだろう。

大学生・大学院生、大学教員、学芸員等、研究職などが七五・五%を占めたのは、古文書・古籍のデジタルアーカイブとして予想された結果である。そのうちの八五%以上は、利用目的に「学術・研究」と答えており、古文書・古籍を扱う分野の研究者による研究目的の利用が、公開システム利用の三分の二を占めていることがわかる。とはいえ、その他の三分の一を見逃すべきではない。目的別では学術・研究に次いで業務目的との回答が多く、そのうち四分の一以上を事務職・その他の会社員・公務員が占め、次いで研究職・技術職、学芸員・司書・アーキビストが続く。出版・報道関係者の業務利用も、学術・研究目的より多い（末尾図グラフ参照）。

こうした必要に応じた利用に対して、全回答者の四分の一が趣味・教養目的とも回答しており、定期的な利用者の存在をうかがわせる。そのうち四分の一以上は大学生・院生であり、さらには小中高生の回答もある点は、公開システムの将来を考えるうえで注視しておかねばならない。

なお、回答のほとんどは日本国内からのもので、海外はアジア圏内からの回答にとどまった。日本国内の利用者が多いのは、公開システムが日本語以

外に未対応であるためだろう。いっぽう、海外でアジアと回答した利用者のうち九割は、利用する資料（後述）に漢籍をあげており、図書館文庫所蔵漢籍に対する関心の高さが表れている。在外日本研究者の利用の便に配慮するためには、英語版の導入も必須だが、現在のところ英訳等の問題に障害が多く、実現の目処は立っていない。

### 利用環境

利用頻度の回答からも半数以上の利用者が月に一〜複数回アクセスしていることがわかった。「数ヶ月に一回」も含めれば八割近くに及び、毎月の画像公開が定期的な利用を呼び込んでいることが推測される。ただ、アンケート回答時にはじめてアクセスしたとの回答も一五%近くあるように、アンケート実施の告知自体が公開システムの宣伝も果たしたとみられ、それを勘案すれば定期利用者の割合は実際にはもう少し多いかもしれない。

表3 利用環境

	～17歳	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	総計
PCのみ		9.9%	15.0%	15.4%	8.8%	9.5%	2.2%	60.8%
PC・スマートフォン		11.7%	3.3%	4.0%	1.5%	0.7%		21.6%
PC・スマホ・タブレット		2.6%	0.7%	0.4%	2.9%	0.4%		7.0%
PC・タブレット		1.1%	0.7%	1.1%				2.9%
スマートフォンのみ		3.7%	0.4%	0.7%	0.4%	0.4%		5.5%
スマホ・タブレット	0.4%	0.4%	0.4%		0.4%			1.5%
タブレットのみ	0.4%				0.4%			0.7%
(回答ナシを除く)	0.7%	29.3%	20.5%	21.6%	14.3%	11.0%	2.2%	100.0%

利用機器は、回答者の九一・六％がPC端末を利用しているとの回答であった。そのうち三分の一はスマートフォンやタブレットも併用しているが、三分の二がPCのみという結果は、前述の学術・研究目的および業務目的が多い点や、八割超が自宅、六割が勤務先で利用していることも合致し、どのような環境で利用されているか具体的に明らかとなる。

ただし、モバイル乃至ポータブル端末での利用が比較的少ないとはいえ、UIの項で述べるように、スマートフォンでの使用感に対する不満の意見も得ている。PCでの利用ばかりを想定していればよいわけではなく、多様な端末による利用を考慮しておきたい。

なお、年齢情報も合わせると、三〇歳未満とそれ以上でスマートフォンの使用に大きな差があり(表3)、やはりスマートフォン向けのUIが今後の課題となる。

#### 利用アーカイブ

利用する分野・アーカイブ別では、全回答者のうち八四・七％が図書館文庫と回答した。これは、本アンケートが図書館文庫のものである以上当然の結果であろう。その図書館文庫と回答した二二三人のうち、ほかにどの分野・アーカイブを利用するかという点に注目すると、図書館文庫のみの利用が四三・八％を占めるが、宮内公文書館との両用も四三・三％と同等である。『書陵部紀要』のPDF版など「発行物一覧」とあわせて利用する人も、図書館文庫利用者の四分の一程度いる。

#### ギャラリーの感想

先述のとおり、トップページのギャラリーは図書館文庫公開システム以来のコーナーだが、現在は書陵部各課の研究職が持ち回りで紹介資料の選定と解説執筆に携わっている。全回答者のうち、「内容が充実しており満足している」は六割弱、「文章がわかりやすく適切である」「更新を楽しみにしている」とも四分の一強にとどまる。「ギャラリーを知らない・見たことがない」も一三・一％にのぼる。

ただし、「知らない・見たことがない」回答者のうち八割以上は、学術・研究目的ないし業務目的の利用者であり、ギャラリーが表示されるトップページを経由せず、あるいは熟読せずに、図書館文庫等の目的のページへ移動する場合が多いのではなからうか。いっぽうで、趣味・教養目的回答者六九人のうち、八七・〇％は「更新を楽しみにしている」「内容が充実しており満足している」「文章がわかりやすく適切である」等の肯定的な回答をしており、一般向けという点では一定の評価を得ているといえよう。とはいえ、「文章がむずかしい」五・八％、「更新頻度が遅すぎる」六・九％が示すように、改善の余地もある。「ギャラリーは意外な資料を発見できるので面白い」との記述回答も得ており、意外性が鍵となるだろう。

#### ユーザーインターフェース(使いかた・見かた)

トップページ・検索結果ページとも、「とてもわかりやすい」「わかりやすい」の合計が六〇％に達しており、「普通」を合わせれば九〇％を超える。だが、目録ページ(書誌情報)・画像ビューワは「とてもわかりやすい」「わかりやすい」の合計がいずれも五四・二％にとどまり、「普通」を合わせて

も九〇％に達しない。デジタルアーカイブが普及するなかでUIも洗練されてきており、それに沿ったデザインが今後の課題である。

関連して、「追加してほしい機能や画像公開してほしい分野など、ご意見ご希望がありましたら、以下にお書きください」の設問（以下、自由記述欄）に、「画像の閲覧に、PCに最適化されたUIはスマートフォン等には使にくい」（要約）という意見や、カラーユニバーサルデザインの問題、「お知らせの分量が多くて見づらい」などの意見や要望も寄せられている。UIはもとより、ユニバーサルデザインやより見やすいページデザインの問題は、今後の改修で最優先に改善すべきものであることがわかった。

#### 表示速度

トップページ・検索結果ページ・目録ページ（書誌情報）とも、「速い（快適）」「やや速い」の合計が五〇％前後で、「普通」を合わせれば九五％近くに及ぶ。だが、画像ビューワは「速い（快適）」「やや速い」の合計が四〇％弱で、「やや遅い」「遅い」が一五％を超える。過去、サーバー側の不具合で画像の表示に支障が生じたことが度々あり、今後の課題となっている。

#### 画像ビューワとIIF

IIF（トリプルアイエフ）とは、「画像へのアクセスを標準化し、相互運用性を確保するための国際的なコミュニティ活動」<sup>12)</sup>である。前述の連携他機関三データベースのほか、国立国会図書館デジタルコレクション、京都大学貴重資料デジタルアーカイブなど多くのデジタルアーカイブがIIFに対応している。

公開システムでも、平成二九年度のリプレイス以来ひとつの検討課題となっているが、「公開システムもIIFに対応してほしい」が三〇・二％にとどまり、「どちらでもかまわない」「IIF対応は不要だと思う」「IIFを知らない」が六七・六％にのぼった。とはいえ、IIFの対応はすでにデジタルアーカイブに関する数々のガイドライン<sup>13)</sup>等でも言及されていることであり、引き続き検討を重ねる必要がある。

公開画像の画質については、「画質がきれいで見やすい」が「画質が粗すぎる」の約一六倍であり、概ね不便は感じられていないと受け止める。ただし、「JPEGファイル形式での全コマ一括ダウンロード機能がほしい」か「PDFファイル形式での全コマ一括ダウンロード機能がほしい」、もしくはその両方を回答したのは全回答者の五六・四％であり、複数指定コマの一括ダウンロード機能の要望も聞かれた。

なお、自由記述欄に「画像の回転機能がほしい」との記述が見られた。九〇度ごとの回転機能はあるので、使い方についての説明不足かと思われる。画像ビューワの機能については、ヘルプを含めて改善の余地があるのか。

#### 図書館文庫の利用

以下は図書館文庫の利用者を対象にしたアンケートの結果である。

最も利用される資料は日本歴史資料で、全回答者中の七二・四％が回答している。次いで日本文学資料四五・八％、漢籍二八・〇％、古写真二〇・七％、洋書二・五％となっている。歴史資料と文学資料で大きな差があるのは、歴史学と文学の研究者人口の差だけでなく、歴史資料と文学資料の所蔵書目数の差もあるだろう。古写真の利用者が比較的多いのは、それらの画像公開

が進んでいるためと考えられるが、いっぽうで画像公開が進んでいない洋書は、やはり利用者も少ない。

画像公開と利用者の目的との関係は、公開システム上でどの情報をよく閲覧、利用するか、という問いの回答からもうかがえる。全回答者のうち八一・一％が画像データか画像が公開されている外部データベースへのリンク、もしくはその両方を利用と回答している。公開システムが、閲覧や複写申請の準備として、所蔵状況や目録データ（書誌情報）の確認に利用されるのではなく、主に画像の閲覧に利用されているのである。検索機能を備えた所蔵資料目録の公開という図書館文庫公開システムの開設当初の目的から、大きく変化しているといわざるをえない。

さて、検索機能についていえば、図書館文庫の利用者が最もよく使うのは、宮内公文書館や陵墓課を含めた横断検索と、フリーワード検索であった。詳細検索の利用者も三分の一以上いるものの、いっぽうで内容の分類による分類検索の利用者は八・四％にとどまり、利用者の便に配慮されていない実態が浮き彫りとなった。

なお、自由記述欄で「函架番号を簡単に検索できるようにしてほしい」との意見があった。詳細検索の「函」「号」欄入力よりも簡便な方法、たとえばフリーワード検索で「函・号」と入力して検索できるような方法を求めているものと思われるが、検索の仕様の拡大、拡散は検索の確実性を損なうため、目下現実的ではないと考える。

### 検索・申請機能の拡充

前述のとおり、図書館文庫では平成二九年度の改修以降、複数冊・複数巻

ある資料の細目情報を適宜登録しているが、これにより検索が煩瑣になる場合も出てきた。たとえば、九条家本『玉葉』（九・一〇五三、五〇冊）を検索しようすると、五〇冊一括の目録情報とともに、一冊ごとの細目情報五〇件もヒットして、計五一件の検索結果が並ぶこととなる。これを解消するために、令和四年春、フリーワード検索と詳細検索に「検索結果に細目を含める」を選択するチェックボックスを設置した。この改修を周知しなかったためか、回答者の半数以上は初期設定の「検索結果に細目を含める」を選択した状態で利用していたが、一〇％近い利用者は、「細目を含めない」で利用していると回答しており、新機能の受容が進んでいるとみなしてよいだろうか。

前章で述べたとおり、平成三〇年四月より閲覧申請フォームを新設し、次いでレファレンスフォームを追加した。前者はお知らせ欄での周知にとどめたため、「知らなかった」の回答が一・六％あったが、目録データ（書誌情報）のページの下部に「閲覧申請」ボタンを設置しているためか、「よく使う」「使ったことがある」の合計は三四・一％に達している。後者も図書館文庫の検索ページの下部に「レファレンス」ボタンを設置しているが、試験的な運用から開始して大々的な周知を行わなかった。「よく使う」「使ったことがある」が計一〇・九％、「使ったことがない」が六九・一％、「知らなかった」は一七・八％であり、「知らなかった」が比較的少ないのは、周知は進んでいるといえようか。

後述のとおり自由記述欄に、フォームによる閲覧申請時の確認メール配信の要望があった。また、複写申請・掲載許可申請のオンライン対応の要望も寄せられた。後者は、現在メールで対応している<sup>15)</sup>。この二点については、ク

ラウドで行っている当システムの個人情報取り扱いの問題があり、慎重に対応を行う必要がある。

#### 自由記述欄の回答

自由記述欄に寄せられた回答を、おおまかに分類したうえでその要約を紹介したい。なお、上述の設問と重複するものは一部省略した。

#### (a) 公開システムの検索機能に対する要望

- ・横断詳細検索の追加
- ・分類検索の仕様改善
- ・目次情報の検索、目次の選択機能の追加
- ・時代別の検索、検索結果の年代順による並べ替え機能の追加
- ・検索結果一覧のダウンロード機能の追加

#### (b) 公開システム上の目録情報に関する要望

- ・書名の通行書名の追加、書名よみの公開
- ・蔵書印・旧蔵者・解説・備考欄等の情報の充実

#### (c) その他公開システムの改善すべき点

- ・当システムおよび図書館文庫等の説明、ヘルプ、凡例の充実
- ・ユニバーサルデザインの対応
- ・お知らせ欄の最適化
- ・スマートフォン・タブレットでの閲覧に適した画像ビューワ
- ・掲載許可申請・複写申請のオンラインフォーム設置
- ・フォームによる閲覧申請時の確認メール配信
- ・所蔵資料のテキスト化（全文検索）

#### (d) 画像公開を希望する資料・分野

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| ・書陵部のみが所蔵している資料          | ・中世以前の資料    |
| ・近世公家日記                  | ・宮廷和歌資料等    |
| ・内裏・皇居の図面類・古写真           | ・幕末維新資料     |
| ・系図・系譜類                  | ・絵画資料       |
| ・古賀家本                    | ・谷森善臣の著作・草稿 |
| ・古写真                     | ・書目書誌類      |
| ・大型の図面                   | ・江戸城関連資料    |
| ・書陵部刊行物（『図書寮叢刊』『書陵部紀要』等） |             |
| ・書陵部刊行物に掲載、紹介されている資料     |             |
| ・明治以降の書籍のうち国会図書館にないもの    |             |
| ・連携他機関で画像公開されていないもの      |             |
| ・東山御文庫本 <sup>16)</sup>   |             |
| ・カラー画像の充実、解像度の改善         |             |

#### (e) 図書館文庫の利用について

- ・デジタル複製頒布の対応
  - ・ブログ・SNS等での画像利用の自由化
  - ・『図書寮叢刊』の再刊
- (a) (b) (c) には、分類検索の改善やユニバーサルカラーデザインの対応、凡例等の充実など、来たるべき次期改修に向けた貴重なコメントが多数寄せられた。
- (d) は質問文に「追加してほしい機能や画像公開してほしい分野など」と例示したこともあって、コメントが多く集まった。個別の要望に込めるこ

とはできないが、特に複数回答のあったものはニーズのあるものとして今後の公開計画の参考としたい。

画質が低いものの高画質画像への差し替えや、薄墨・朱点などがある資料のカラー画像を求める声もあった。検討していききたい点だが、既公開分の差し替えより未公開分の新規公開を優先すべきか、悩ましい点でもある。また、差別などの人権侵害につながる情報を有する資料や、閲覧に一定の制限等が必要な情報（死や暴力に関する直接的な表現等）を有する資料は、人権擁護の観点から画像公開を見合わせている。ご理解いただきたい。

(e)のうち、ウェブ上での画像利用については、画像ビューワにあるリンク用URL表示ボタン（鎖のアイコン）で表示されるダイアログより、該当ページのURLを取得できる。リンク用のサムネイル等は現在表示されないが、SNS等で簡便な引用には、ひとまずこちらをご利用いただきたい。また、所蔵資料の頒布方法についての要望もあったが、本年度よりデジタルデータでの頒布が可能になるなど刷新している点も少なくない。詳しくは宮内庁ホームページの図書館文庫のページ<sup>17</sup>をご参照いただきたい。

## 五 おわりに

以上、当システム図書館文庫のこれまでと現状を振り返りつつ、アンケートの結果を通して、目下の問題点や将来的な方向性を整理した。「改善の余地」や「今後の課題」に終始してしまっただけでもないが、ここで見てきたように、この十年間に、公開システムの利用のされかたは、所蔵状況や目録データ（書誌情報）の確認から、資料画像の閲覧へと変化している。これは

当システムに限ったことではなく、目録データベース類の大きな、かつ一般的な変化だろう。

現在、目録情報（メタデータ）の検索から画像の閲覧という一連の機能が、文献資料のデジタルアーカイブの基軸となっているが、この十年の変化に鑑みれば、次の十年でどのような変化があるかは予測しえない。すでに兆しのある画像検索や3Dデータの登載、AI翻訳アプリとの連携などは、早晩基軸になるのかもしれない。もとより当システムはデジタルアーカイブの最先端にあるものではないが、現状に固執することなく変化を認識し、柔軟に対応していくことが求められているというまでもないだろう。

もともと当システムには、UIやページデザインの問題から、検索機能の改善、凡例等の充実、IIFの対応に至るまで、新たな基軸に目を向ける前に取り組むべき課題が山積している。これらに関するデジタルアーカイブの潮流も、変化と前進を続けており、動向を正確に把握しておかねばならない。これまでの度々の改修では、デジタルアーカイブに関する各種ガイドラインや、各所のデータベース・デジタルアーカイブの動向を参照したが、引き続き目を配っておく必要がある。

今回のアンケートでは幸いなことに、感謝のおことばも、更なる拡充をとの励ましのコメントも多くいただいた。人員・予算ともに小規模な運用基盤の当システムではあるが、職員撮影や他機関データベースとの連携など、小規模なりの工夫をして成長を進めてきた。その取り組みのフィードバックとして、今回のアンケート結果は意義深いものと受け止めている。

加えて当システムは、専門的な研究資源の提供媒体であるだけでなく、広報の最前線でもある。文学・歴史にとどまらず、医学や自然科学にも及ぶ多

様な性格を有する図書寮文庫の保存とさらなる利活用に向けて、アンケート結果を参考に、当システムの発展的な運用を今後も進めていく所存である。回答いただいた方々に感謝するとともに、今後とも当システムにご協力いただければ幸いです。

註

- (1) 図書寮文庫の目録情報群は、戦前の宮内省図書寮時代からの図書整理の蓄積の上であり、書名のよみには現在から見れば修正を要するものもあるが、統一的な修正が困難なため、混乱を避けて公開を控えている。
- (2) 令和二年度以降の職員撮影分の減少は、コロナ禍における出勤体制の変化に伴うものである。
- (3) 試みのひとつとして、黒澤麻衣・植田真平「壬生家家領関係文書」修復報告と紙背文書等の紹介(『書陵部紀要』七二、二〇二一年)がある。
- (4) ダウンロードの画像サイズを長辺二〇〇〇ピクセルとしたのは、京都大学貴重資料デジタルアーカイブ(<https://mda.kulib.kyoto-u.ac.jp/about>)等を参考にした(掲出のURLは令和五年二月二七日閲覧、以下同)。
- (5) 複写頒布業務は長らくマイクロフィルム撮影によっていたが、同フィルムの生産縮小にともない、令和五年度よりデジタル撮影に変更した。
- (6) <https://kokushonijl.ac.jp/>
- (7) <https://db2.sido.keio.ac.jp/kanseki/>
- (8) <https://www.wap.hi-u-tokyo.ac.jp/ships/w81/search>
- (9) ギャラリーのテーマは、たとえば図書寮文庫が担当したものでは、「鉄道関係資料」「東北―古写真・古文書に見る―」「家康が慈しんだ図書―紅葉山文庫の蔵書から―」「宮廷音楽の調べ―楽書の世界―」「古典文学に見る鬼のすがた」などのほか、平成二八年九―十一月に宮内庁三の丸尚蔵館(当時)との共催展「書之美、文字の巧」に合わせて、展示資料をとりあげたこともある。

- (10) スマートフォンでの閲覧の場合、「発行物一覧」へのリンクは、各ページ最下部。
- (11) 検索結果やビューワの画面で、サムネイル画像やウォーターマーク(すかし)が表示されるたびに一画像ごとにアクセスがカウントされるため、それも総アクセス数の増加に影響しているとみられる。たとえば、平成三〇年三月の総アクセス数は、約一四万だったが、そのうち約半数はサムネイル画像・ウォーターマーク表示をカウントしたものであった。とはいえ、アクセス数の増加傾向は認めてよいだろう。
- (12) <http://codh.rois.ac.jp/iiif/>
- (13) たとえば、デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」(平成二九年四月、事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局、[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/rieki2/digitalarchive\\_kyougikai/guideline.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/rieki2/digitalarchive_kyougikai/guideline.pdf))や、国立国会図書館「メタデータ流通ガイドライン」(令和四年三月、<https://iss.ndl.go.jp/information/guideline/>)など。
- (14) 図書寮文庫の分類上では、「日本文学」カテゴリの書目が七八三九件であるのに対し、「日本史」カテゴリは八三六七件、「古代法制」は九八八九件である。
- (15) <https://www.kunaiicho.go.jp/kunaiicho/shinsei/toshoryo.html>
- (16) 宮内庁侍従職の所管であるため、書陵部の管轄外にある。
- (17) 註15に同じ。

図書寮文庫におけるデジタルアーカイブの取り組み

1 (1) 年齢（整数は回答数、%は小数点第2位四捨五入、以下同）

～17歳	2	0.7%
18～29歳	80	29.1%
30～39歳	56	20.4%
40～49歳	59	21.5%
50～59歳	39	14.2%
60～69歳	31	11.3%
70歳～	7	2.5%
回答しない	1	0.4%

1 (2) 主として生活している場所（国・地域）

日本	264	96.0%
アジア（日本以外、パキスタン以東）	10	3.6%
無回答	1	0.4%

回答0の地域は省略した。

2 (1) 利用目的（複数回答可・全回答者中の割合・右図参照）

学術・研究	213	77.5%
業務	88	32.0%
趣味・教養	69	25.1%
無回答	1	0.4%

2 (2) 利用頻度

ほぼ毎日	0	0.0%
週に1～2回	73	30.2%
月に1～2回	69	28.5%
数ヶ月に1回	48	19.8%
年に1回	10	4.1%
今回がはじめて	36	14.9%
その他	5	2.1%
無回答	1	0.4%

その他……数年に1～2回、業務等に応じて期間集中的に等

2 (3) 利用する機器（複数回答可・全回答者中の割合・右図参照）

パーソナルコンピュータ	252	91.6%
スマートフォン iphone	68	24.7%
スマートフォン android	31	11.3%
タブレット PC	33	12.0%
無回答	2	0.7%

(1 (1)-2 (3) 年齢別の利用機器…本文表3に掲載)

2 (4) 利用する場所（複数回答可・全回答者中の割合）

自宅	224	81.5%
通学先	55	20.0%
勤務先	165	60.0%
公立図書館	6	2.2%
その他	4	1.5%
無回答	2	0.7%

その他……移動中、教育現場 等

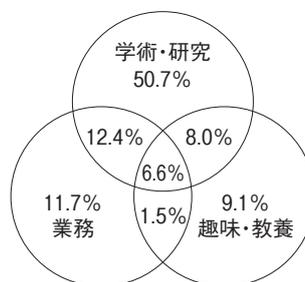
2 (5) 利用する分野（複数回答可・全回答者中の割合）

図書寮文庫	233	84.7%
宮内公文書館	130	47.3%
陵墓課	30	10.9%
発行物一覧	69	25.1%
無回答	3	1.1%

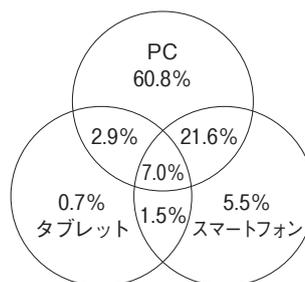
1 (3) 職業等

小学生・中学生・高校生	2	0.7%
大学生・大学院生	70	25.5%
教職員（小中高ほか）・教育関係	7	2.5%
大学（大学院）教員	63	22.9%
芸芸員・司書・アーキビスト	25	9.1%
出版・報道関係	5	1.8%
会社員・公務員・団体職員（研究職・技術職）	48	17.5%
会社員・公務員・団体職員（事務職・その他）	37	13.5%
自由業・自営業	5	1.8%
専業主婦（夫）	2	0.7%
無職	10	3.6%
無回答	1	0.4%

2 (1) 内訳（無回答を除く）



2 (3) 内訳（無回答を除く）



2 (5) 図書寮文庫とともに利用する分野（複数回答可・図書寮文庫回答者中の割合）

図書寮文庫のみ	102	43.8%
宮内公文書館	101	43.3%
陵墓課	22	9.4%
発行物一覧	59	25.3%

図書寮文庫におけるデジタルアーカイブの取り組み

3 (1) ギャラリーについて（複数回答可・全回答者中の割合）

内容が充実しており満足している	162	58.9%
内容がつまらない	5	1.8%
文章がわかりやすく適切である	72	26.2%
文章がむずかしい	16	5.8%
文章がやさしすぎる	5	1.8%
更新を楽しみにしている	79	28.7%
更新頻度が早すぎる	3	1.1%
更新頻度が遅すぎる	19	6.9%
ギャラリーのバックナンバーをよく見る	42	15.3%
ギャラリーを知らない・見たことがない	36	13.1%
その他	12	4.4%
無回答	1	0.4%

その他……充実への期待、体裁の改善 等

3 (2) トップページの使いかた・見かた

とてもわかりやすい	56	20.3%
わかりやすい	114	41.3%
普通	83	30.1%
ややわかりにくい	18	6.5%
わかりにくい	5	1.8%
無回答	0	0.0%

3 (2) 検索結果ページの使いかた・見かた

とてもわかりやすい	57	20.7%
わかりやすい	108	39.3%
普通	87	31.6%
ややわかりにくい	18	6.5%
わかりにくい	3	1.1%
無回答	2	0.7%

3 (2) 目録ページ（書誌情報）の使いかた・見かた

とてもわかりやすい	53	19.3%
わかりやすい	96	34.9%
普通	95	34.5%
ややわかりにくい	23	8.4%
わかりにくい	5	1.8%
無回答	3	1.1%

3 (2) 画像ビューワの使いかた・見かた

とてもわかりやすい	56	20.4%
わかりやすい	93	33.8%
普通	97	35.3%
ややわかりにくい	20	7.3%
わかりにくい	4	1.5%
無回答	5	1.8%

4 (1) IIIF への対応

公開システムも IIIF に対応してほしい	83	30.2%
どちらでもかまわない	111	40.4%
IIIF 対応は不要だと思う	6	2.2%
IIIF を知らない	69	25.1%
その他	1	0.4%
無回答	5	1.8%

その他……速さと冗長性で検討すべき

3 (3) トップページの表示速度

速い（快適）	94	34.2%
やや速い	42	15.3%
普通	125	45.5%
やや遅い	6	2.2%
遅い	3	1.1%
無回答	5	1.8%

3 (3) 検索結果ページの表示速度

速い（快適）	89	32.4%
やや速い	49	17.8%
普通	119	43.3%
やや遅い	11	4.0%
遅い	3	1.1%
無回答	4	1.5%

3 (3) 目録ページ（書誌情報）の表示速度

速い（快適）	92	33.5%
やや速い	44	16.0%
普通	124	45.1%
やや遅い	7	2.5%
遅い	4	1.5%
無回答	4	1.5%

3 (3) 画像ビューワの表示速度

速い（快適）	64	23.3%
やや速い	45	16.4%
普通	118	42.9%
やや遅い	28	10.2%
遅い	14	5.1%
無回答	6	2.2%

4 (2) 画像ビューワの表示画像（複数回答可・全回答者中の割合）

画質がきれいで見やすい	159	57.8%
画質が粗すぎる	10	3.6%
画質が精細すぎて表示に時間がかかる	19	6.9%
JPEG ファイル形式での全コマ一括ダウンロード機能がほしい	112	40.7%
PDF ファイル形式での全コマ一括ダウンロード機能がほしい	135	49.1%
特になし	36	13.1%
その他	6	2.2%
無回答	3	1.1%

その他……画像が表示されない時がある、複数指定コマの一括ダウンロード機能がほしい 等

図書寮文庫におけるデジタルアーカイブの取り組み

5 利用する分野（複数回答可・全回答者中の割合）

日本歴史資料	199	72.4%
日本文学資料	126	45.8%
漢籍	77	28.0%
古写真	57	20.7%
洋書	7	2.5%
その他	2	0.7%
無回答	9	3.3%

6 よく閲覧する情報（複数回答可・全回答者中の割合）

目録データ（書誌情報）	178	64.7%
画像データ	214	77.8%
外部データベースへのリンク （東大史・国文研・漢籍集覧）	102	37.1%
無回答	14	5.1%

7 よく使う検索機能（複数回答可・複数回答可）

横断検索（図書寮文庫・宮内公文書館・ 陵墓課）	170	61.8%
フリーワード検索	168	61.1%
詳細検索	95	34.5%
分類検索	23	8.4%
無回答	11	4.0%

8 検索機能「資料細目：検索結果に細目を含める／含めない」チェックボックス追加について

主に「細目を含める」（初期設定）で 利用している。	149	54.2%
特に必要がなく、主に「細目を含め ない」で利用している。	27	9.8%
機能がわからず、主に「細目を含め ない」で利用している。	52	18.9%
フリーワード検索・詳細検索を利用し ていない。	35	12.7%
その他	2	0.7%
無回答	10	3.6%

その他……知らなかった 等

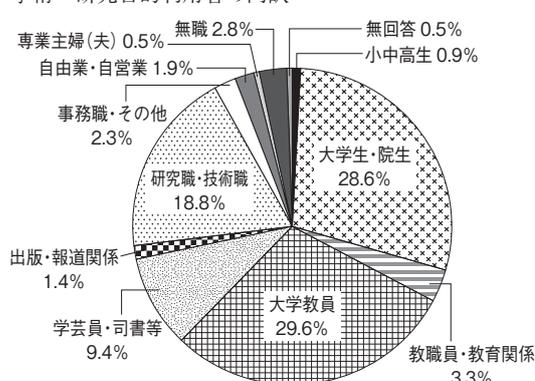
9 図書寮文庫閲覧申請フォーム

よく使う	24	8.7%
使ったことがある	70	25.4%
使ったことがない	142	51.4%
知らなかった	32	11.6%
無回答	8	2.9%

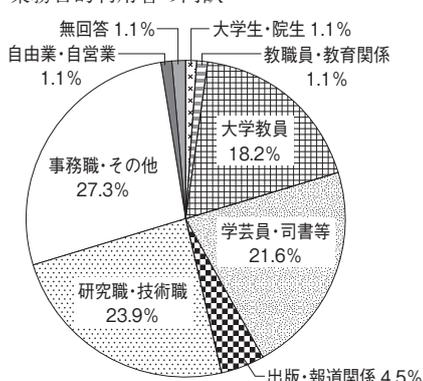
10 レファレンスフォーム

よく使う	11	4.0%
使ったことがある	19	6.9%
使ったことがない	190	69.1%
知らなかった	49	17.8%
無回答	6	2.2%

学術・研究目的利用者の内訳



業務目的利用者の内訳



趣味・教養目的利用者の内訳

